

<調査結果の概要>

	2008年	2009年見込	前年比	2010年予測	前年比
スキンケア化粧品	9,932億円	9,903億円	99.7%	9,898億円	99.9%
化粧品全体に占める構成比	44.5%	44.7%		44.7%	

2008年秋以降の景気後退を受けて化粧品市場が縮小している中、スキンケア化粧品市場も同様に2008年は前年比0.2%減、2009年はそれ以上の縮小が見込まれる。2010年も縮小が続くと予測される。ただ、化粧品市場全体に占める構成比に変動はなく、約45%を維持していく見通しである。

販売チャネル別では、「ドラッグストア」がスキンケア化粧品の中で最も高い構成比を維持すると見られるが、インターネットショッピングやテレビのインフォーマーシャル番組が好調な「通信販売」が毎年100億円前後増加しており、構成比もドラッグストアに迫る勢いを見せている。

機能別では、対象となる30代以上の人口増加とメーカーの積極的な展開を背景に「アンチエイジング」が拡大しており、2009年にはスキンケア化粧品における構成比で30%を突破すると見込まれる。

価格帯別^{※3}では、高機能製品が牽引し好調だった「高価格帯」が、消費マインドの低下によって2008年は一転して減少に転じた。特に百貨店の来客数の減少が影響し、低迷が続くと考えられる。「中価格帯」は2008年に大幅減となったものの、通信販売でヒット商品が相次いでいることから2009年は増加に転じる見込みである。「低価格帯」は市場全体の縮小傾向の流れを受けているものの、一方で消費マインドが低下している中で価格面での優位性も見られる。

※3：化粧品、美容液の平均価格で分類。高価格帯…6,000円以上、中価格帯…2,000円以上6,000円未満、低価格帯…2,000円未満

以上

<調査対象>

市場総括	販売チャネル別、機能別、価格帯別
素材	ヒアルロン酸、米由来成分、豆乳/豆由来成分、レチノール、オーガニック素材
コンセプト	シート、マルチパーパス、毛穴対策、50代以上向け、リフトアップ、ピーリング、ドクターズ系、製薬系、異業種参入系（製薬系を除く）

<調査方法>市場調査は、富士経済専門調査員による対象企業及び関連企業、関連団体などへのヒアリング調査
消費者調査は、日常的にスキンケアを行っている20歳～49歳の女性480人を対象に、インターネットによるアンケート調査

<調査期間>2009年11月～12月

資料タイトル	「スキンケア開発トレンドデータ 2009-2010」
体裁	A4判 246頁
価格	100,000円（税込み105,000円）
調査・編集	富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部 TEL:03-3664-5831 FAX:03-3661-9778
発行所	株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL:03-3664-5811（代） FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/